

日本語教育におけるe-ラーニング 活用のケース

留学生センター
永井智香子

WebCTを利用した日本語中級コースの例

- 中級の作文クラスと文法クラスの例（実施は平成16年度～）
- 授業では1回、受講者の登録と使い方を説明する以外、授業ではWebCTを使わず、すべて受講者との連絡や時間外学習のための使用であった。
-

作文クラスの流れ

- 1. 毎回異なるトピックの内容と目的についての説明
- 2. トピックについて書くために必要な語彙や表現の導入、練習
- 3. 作文例を読む
- 4. 実際に手書きで作文を書く
- 5. その日のうちに作文を教師に提出
- 6. チェックされた作文を受け取り、次の授業の5分前までにパソコンで打ち直して、WebCTで提出

作文クラスにおけるWebCTの利用

- ①カレンダー 各回の作文のトピックや試験の予定などを記入
- ②Power Point 毎回の授業で語彙や表現の導入・練習に使用したものをアップロード
- ③授業で使用したプリント
- ④宿題提出「宿題はこちら」
- ⑥メール
- ⑦提出された全員の作文をアップロード

受講学生のアンケート結果

- 3期、計42名データから
- ・パソコンでの学習が好きか 好き31名
- ・感想
- 日本語のタイピングの練習になった 29名
- 自分の間違いがよくわかった 25名
- 時間がかかった 10名
- パソコンを持っていないのでやりにくかった 5名
-

アンケートの結果から

- ・クラスメートの作文を読んだか
- 毎回読んだ 3名
- だいたい読んだ 8名
- 半分くらい読んだ 4名
- いくつかのトピックだけ読んだ 11名
- 1回も読まなかった 6名
- ・その他の感想
- 予習も復習もできるので良い
- アクセスできないときが多かった 1名

中級文法クラスの流れとWebCT

- 最初の約30分で動詞と副詞について意味や使い方を導入・練習し、残りの約60分で日本語能力試験2級レベルの文型の導入練習を行う
- WebCTは「授業のプリント」「Powerpoint」
- 「メール」「復習テスト」で使用

復習テストについて

- 「テスト・アンケート」というツールを使用して作った宿題「復習テスト」で、出題、回答、提出、採点、記録のすべてを行う。
- ・毎週、期限は次回の授業の5分前まで、制限時間・受験可能回数は無制限、結果(正解)の通知は「提出(テスト終了)後すぐ」に設定

アンケートの結果から

- 3期計60名のデータより
- ・宿題はWebCTと紙とどちらがよいか
- WebCTのほうがよい 38名
- 紙のほうがよい 15名
- どちらも同じ 5名
- ・WebCTのほうがよい理由(複数回答可)
- 正解がすぐにわかる 25名
- 何回もできる 22名
- 遊びみたいだから 14名
- 紙より面白い 13名
-

・紙のほうがよい理由

- パソコンを持っていない 8名
- パソコンがないと宿題ができない 4名
- 紙のほうが慣れている 3名

・どこで宿題をしたか

自分の部屋 36%→71%→86%

■

永井の取り組み

2期にわたって中級作文クラスでWebCTを使用
使用項目

- ①メール
- ②プリント教材のアップロード
- ③クラスメートが書いた作文をアップロード

来日前の準備講座から来日後に e-ラーニングを利用する例

- ・某大学工学部でのダブルディグリー取得を目指し、協定校から留学してくる留学生を対象
- ・工学部と共同で開発中
- ・日本語ゼロ初級者を対象
- 来日前の教材はひらがな、カタカナ、数字、簡単なあいさつなど
- ・来日後はe-ラーニングでの予習と復習が前提
- インターアクションが必要であるコミュニケーション
- 活動のみを教室で行う
-

- LMSはムードル(moodle)を使用
- 問題点
- IDとパスワードの支給をどのようにするか

上級日本語読解コンテンツの開発

- ・東京農工大学の取り組み
(日本教育工学会 第23回全国大会にて発表)
- ・留学生を対象とした日本語教育では、「日本語教員」と「専門教員」との協同の重要性が指摘されている。
- ・MLSであるMoodleを使って、科学文献購読e-ラーニング教材を試作

コンテンツと評価

- ・文献購読: 文字・音声情報の提供
- ・レクチャー: 研究テーマの理解確認
- ・レクチャー課題: 講義の理解課題
- ・専門用語集: 専門用語の解説
- ・文法・構文課題: 科学文献の文章理解
- ・図表課題: 科学文献の図表理解
- ・留学生e-ラーニング使用に対する期待は高いことがわかった

名古屋大学留学生センターの試み

日本教育工学会研究報告集(授業実践とメディア活用)

- ・中級日本語コンピュータ教材の作成
- ・日本語学習者に使われている『A Course in Modern Japanese』(名古屋大学出版会)の聴解ワークシート3冊の紙媒体とテープをもとに作成された。
- ・各セッションは1. 背景知識、2. 単語、3. 要点、4. 要点練習、5. タスク、6. 内容質問、7. 復習、8. 要点練習、9. スクリプト、10. 成績 よりなる

- ・4, 5, 6, 7には選択問題、記入問題、drag and drop問題、○×問題など学習者自身が自分の聴解力を試す問題が揃えられている。学習者は問題に解答したあと、即座に自分の間違いをチェックでき、正答を確認できる。さらに、問題に解答するたびに成績が履歴に残り、自分の成績を簡単に把握できる。

日本語専門書店のe-ラーニングのサポート

- にほんごの凡人社のホームページより